学校番号	1208

平成 31 年度　　指導と評価の年間計画

教科	科目（講座名）	単位数	指導学年	履修の条件
数　学	数学Ａ	２	２	数学Ⅰを履修後、 または数学Ⅰと平行履修

使用教科書	副読本等
「新　高校の数学A」（数研出版）	なし

準備物・費用等	必修／選択	全員履修	セット	自由選択	授業形態	講義	実技	実習
必要があればその都度連絡します。			○			○		

１．担当者からのメッセージ（学習方法等）

生徒の学力に応じて教科書の内容を精製し、講義と問題演習を反復しながら基礎学力の充実を図る。また、補助プリントなどを適宜作成し、理解を深めるとともに、計算力の向上を目指す。

２．学習の到達目標

主に場合の数と確率、図形の性質について理解させ、基礎的なちしきの修得と技能の習熟を目指す。

３．学習評価（評価規準と評価方法）

観点	ａ：関心・意欲・態度	ｂ：数学的な見方や考え方	ｃ：数学的な技能	ｄ：知識・理解
観点の趣旨	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	授業に対する態度や提出物の状況によって評価する。	提出物に関して、毎回の授業で集めチェックしている。	定期考査を通し判断する。また授業に復習の計算を入れることでも評価する。	毎回の授業で集める提出物 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

月	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月 ～ 5月 中旬	場合の数	集合の要素と個数	○	○	○	○	a,数え上げの考え方に興味を持つことができる。 b,樹形図などを用い、基本的な個数を処理することができる。 c,数え上げの原則として、和の法則、積の法則を理解している。 d,集合や要素の記号について理解している。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
5月 下旬 ～ 7月	場合の数	順列、組合せ	○	○	○	○	a,順列や組合せの新しい計算や使い方に興味をもち、意図的に理解しようとする。 b,樹形図などを用い、基本的な個数を処理することができる。 c,円順列や重複順列を解くことができる。 d,順列と組合せの関係性を理解している。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
8月 下旬 ～ 10月 上旬	確率	事象と確率 確率の基本性質 独立な試行の確率、条件付き確率	○	○	○	○	a,事象と確率について興味を持つことが出来る。 b,確率を身近な現象と捉え、考察することが出来る。 c,問題を適切に処理し、推論することができる。 d,独立や条件付き確率について理解できる。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
10月 中旬 ～ 12月	平面図形	三角形の性質 円の性質	○	○	○	○	a,三角形の性質について興味を持つことができる。 b,三角形の性質について自ら考察することができる。 c,円の性質を用いて、問題を適切に処理できる。 d,円の性質を理解できる。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
1月 ～ 2月	約数と倍数	約数と倍数 最大公約数 最小公倍数	○	○	○ ○	○ ○	a,約数と倍数について興味を持つことが出来る。 b,約数と倍数について考察し、表現できる。 c,整数の割り算を正確に行うことが出来る。 d,商や余りについて正しく理解できる。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況